

第5章 手引きの活用

本手引きは、幼稚園・保育所が一緒になって話しあい、検討しあいながら作成しました。それらを踏まえて、本手引きの主な特長を以下の3つに集約しました。

手引きの特長

1 4つの育みたい力とその教育・保育内容を示している。

※P16～43は、年齢別の「子どもの姿」「ねらい」「教育・保育内容」のことをさしています。

P4・5
P16～43

2 0～5歳児の発達と学びの連続性をもたせている。

P6～13

3 子どもの様子や幼保での取組み事例を多く紹介している。

※P16～43は、年齢別の「エピソード」のことをさしています。

P16～43
P49～64

それら特長を活かして、以下のような活用方法が考えられます。

手引きの活用方法

読みあわせ、感想を話しあう。

保育者同士が集まり、手引きの読みあわせを行い、内容を理解する。また、感想や思いを話しあい、自分の幼稚園・保育所の状況と照らしあわせてみる。

例えば
事例①
P66

指導計画の参考にする。

指導計画を作成する際に、手引きのめざす子どもの姿やねらいを参考にする。また、発達と学びの連続性を踏まえ、他の年齢の教育・保育内容の流れを意識する。

例えば
事例②
P67

研修会を開く、研修資料に使用する。

幼稚園・保育所内で、手引きを参考にし、自分の園（所）の子どもたちの育ちなどを検討する研修会を開く。また、新任研修などにおける研修資料として使用する。

子どもの育ちのエピソードを集める。

手引きのエピソードを参考にし、自分の幼稚園・保育所での子どもの成長につながったエピソードを集める。また、集められたエピソードを保育者同士で共有する。

教育・保育実践の振り返りに活用する。

手引きの教育・保育内容を参考に、各学期を総括する機会において、どこまで育っているかをチェックする。また、クラス運営にあたっての参考にする。



手引きの理解や話しあいにより、子どもの育ちを共有することが大切です。

事例①

模造紙を使った ワークショップ

保育者同士が話しあいながら、
育みたい子どもの姿や取り組むべき教育・保育内容を共有する。

各園(所)で
取り組んで
みましょう

ワークショップのテーマ例

子どもたちの現状と課題

取り組むべき教育・保育内容

育みたい子どもの姿とねらい

必要な環境・援助

など

上記のテーマは、研修会や指導計画を作成する際の例です。ワークショップは、さまざまな人の考えや意見を共有することにメリットがあります。そのため、上記テーマ以外にも、「保護者と信頼関係を築くために必要なことは？」や「入園(所)したての子どもが園(所)生活に馴染むためには？」など、保育者同士で一緒に考えていきたい日頃の教育・保育実践の課題をテーマにすることも有効です。

実践例 育みたい子どもの姿は？

1 ワークショップの説明（5分）

ファシリテーター（進行役）が、ワークショップのテーマや流れについて説明します。グループ編成は4～6人とし、一人ひとりが意見を言いやすい環境をつくります。

2 付箋に意見を記入（10分）

本手引きを参照しながら、付箋に各幼稚園・保育所での「育みたい子どもの姿」を記入します。一つの付箋に一つの意見を記入しましょう。間違えた意見はないので、自由に思うことを記入しましょう。



3 話しあい（30分）

付箋に記入した内容を発表しながら模造紙に貼りつけていきましょう。似たような意見を集め、表題を模造紙に記入しましょう。模造紙に出された意見を話しあいながら共有しましょう。



4 振り返り、発表（15分）

ワークショップで話しあわれた内容を、グループ内で振り返りましょう。グループ内での共有意見や、課題として残ったことをまとめましょう。その内容などを、他の保育者も交えて発表しましょう。また、ワークショップを通じて学んだことや感じたことについても発表し、園(所)内研修などへの活用について考察してみましょう。



ワークショップ実践のポイント

①他の意見を否定しない

出された意見に間違いはありません。

②特定の人が話しすぎない

限られた時間の中で、さまざまな人からより多くの意見を集めることが大切です。

③メンバー全員が共有できる結論をめざす

さまざまな意見を共有し、メンバー全員が納得できる話し合いの成果を出すことをめざしましょう。

ワークショップの準備物

○模造紙

付箋が多く貼れる大きめの模造紙。

○付箋

正方形。色をわけることによって、使い方も広がります。子どもの姿はピンク色、ねらいは水色など。

○サインペン・カラーマジック

参加者全員が付箋の意見を見られるように、黒色のサインペンを使います。似た意見をまとめ、枠組みをつくるためにカラーマジックを使います。

事例②

ワークシートを使った
子どもの育ちの共有

保育者それぞれが自分の考えを
整理するとともに、他の保育者と子どもの育ちを共有する。

各園(所)で
取り組んで
みましょう

ワークシートの項目例

子どもの育ちのエピソード

エピソードに対する評価・反省

など

上記のテーマは、子どもたちが日頃の生活の中で見せる子ども自身の育ちにつながった出来事をエピソードとして、保育者が共有するための例です。ワークシートには、子どもの育ちにつながったエピソードをまとめることにより、それぞれの考えを整理できることや、それを他の保育者と共有できることにメリットがあります。そのため、ワークシートで継続的に集められたエピソードを整理し、保育者の研修資料として活用することが有効です。

実践例 ワークシート記入から共有まで

記入イメージ

1 ワークシートの配付

保育者に「子どもの育ちワークシート」(次頁参照)を配付します。対象年齢を指定するのも効果的です。

2 ワークシートの記入

1週間程度の期間で記入してもらいます。本手引きのエピソードを参考に、子どもの成長につながったエピソードを他の人に伝えるように簡潔にまとめることがポイントです。

3 ワークシートを用いた話しあい

保育者が記入したワークシートをもち寄り、それぞれのエピソードから、子どもの育ちについて意見交換を行います。話しあいで出た意見はワークシートの「コメント」に記入しましょう。

4 ワークシートの整理・まとめ

もち寄られたワークシートの内容を整理し、本手引きに綴じていきましょう。定期的な実施し、まとめていくことで、保育者の研修資料としても活用できます。

子どもの育ちワークシート

テーマ	名前: 八尾 育子
3人で遊んだらええやん! (相手を思いやる気持ちを育む)	
年齢・時期	4歳児 5月 場面 園庭にて 育まれる力 大切にする力 つながる力
あらすじ	AちゃんとBちゃんは仲がよく、いつも一緒に遊んでいます。そんなある日、BちゃんはCちゃんと一緒に遊んでおり、その様子を見たAちゃんが悲しんでいると、Dちゃんが仲立ちに入り、3人で仲良く遊ぶようになりました。
エピソード	
1	BちゃんとCちゃんは二人が大好きなボール投げを一緒にしていました。そこへAちゃんが来て「いれて!」と言いました。
2	Bちゃんは「今、Cちゃんと遊んでるからダメ」と断り、BちゃんはCちゃんの手を取り、砂場へ行ってしまいました。
4	Bちゃんは「いいよ! Aちゃんも一緒に遊ぼう」と声をかけ、Cちゃんも「3人で遊ぼう」と言い、3人で仲良く手をつないで遊び始めました。
3	その様子を見ていたDちゃんがBちゃんとCちゃんのところへ一緒に行き、「3人で遊んだらええやん」と言いました。
評価・反省	Dちゃんが人を思いやる気持ちをもち、BちゃんとAちゃんの仲立ちができたことは素晴らしいことです。保育者としては、子ども同士で解決できるのを温かく見守り、必要に応じてアドバイスや仲立ちをすることが大切です。Dちゃんのアドバイスを素直に受け入れたBちゃんとCちゃんにも共感する力や折り合いをつける力が育まれ始めています。
コメント	遊ぶことを断られたAちゃんの悲しい気持ちをDちゃんがくみ取り、代わりに伝えてあげ、子ども同士で解決できたことが良かった点です。友だちの思いに気づき、Dちゃんの言った言葉に嬉しさを感じ、友だちとのつながりが広がっていったと思います。

話しあいのポイント

- ①似ている場面をきいてみる
- ②子どもの視点と保育者の視点でエピソードを検証してみる

参加者全員の意見を
集め、さまざまな
視点から話しあう
ことがポイントです。



テーマ

名前： _____

育まれる力

エピソード

1	2
4	3